

**養いはぐくむことによって人を牧養し、召会を建造する**

聖書：エペソ 5:29. 啓 1:12-13. II コリント 7:2-3. I コリント 8:1. 13:4-8, 13

**エペソ 5:29** 自分の肉体を憎んだ者はかつてなく、むしろ、キリストが召会に対してなされるように、それを養いはぐくむのです。

**啓 1:12-13** わたしは、わたしに語りかけたその声を見ようとして振り向いた。振り向くと、七つの金の燭台を見た。その燭台の間に、人の子のような方が、足まで垂れた衣を着て、胸に金の帯を締めておられた。

**II コリント 7:2-3** わたしたちに心を開いてください。わたしたちはだれに対しても不正を行わず、だれをも腐敗させたことはなく、だれからもだまし取ったことはありません。わたしがこのことを言うのは、あなたがたを罪に定めるためではありません。なぜなら、前にも言ったことですが、あなたがたはわたしたちの心の中であって、わたしたちと共に死に、共に生きるからです。

**I コリント 8:1** さて、偶像に供えられた物については、みな知識を持っていることを、わたしたちは知っています。知識は人を思い上がらせますが、愛は建造します。

**13:4-8** 愛は辛抱強く、愛は親切です。それはねたみません。愛は誇ることがなく、思い上がることもありません。それは無作法をしません。また自分の利益を求めません。それはいらだちません。また人の悪を数えたてません。それは不義のものを喜ばないで、真理と共に喜びます。それはすべてを覆い、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐え忍びます。愛は決して絶えることはありません。しかし、預言であれば、それはすたれ、異言であれば、それはやみ、知識であれば、それはすたれます。

**13 節** こういうわけで、永存するものは、信仰、希望、愛、この三つです。そして、その中で最も大なるものは愛です。

**I. 神の全体的な救いの中での神の新約エコノミー全体の内容は、キリストが人の子としてわたしたちをはぐくみ、神の子としてわたしたちを養うことです——エペソ 5: 29：**

- A. キリストは人の子として、わたしたちを罪から贖うために来て、彼の死を通して法理的な贖いを完成しました（I テモテ 1:15. エペソ 1:7）——はぐくみ。
- B. キリストは神の子として、神聖な命を豊かにわたしたちの中に分け与えるために来て、彼の復活の中で有機的な救いを完成しました（ヨハネ 10:10. I コリント 15:45 後半）——養い。

**II. キリストが彼の天の務めにおいて、金の燭台としての諸召会を牧養するのは、彼の人性の中で人の子として諸召会をはぐくみ、彼の神性の中で大祭司として諸召会を養うことによります——啓 1: 12-13：**

- A. 人の子とは彼の人性の中にあることであり、金の帯とは彼の神性が彼の力となったことを表徴し、胸は愛のしるしです。キリストの金の力は彼の愛によって行使され動機づけられて、諸召会を養います。
- B. 彼は人の子として彼の人性の中で、燭台の芯をせん定することによって諸召会をはぐくみ、神の目的にしたがっていないすべてのもの、例えばわたしたちの肉、天然の人、自己、旧創造と、わたしたちのすべての悪い行ない、短所、失敗、欠点を切り取ります—— 13 節. 出 25:38. 30:7。
- C. 彼は大祭司として、彼の神性を「力の帯」とし、すべてを含むキリストであるご自身をもって、彼の三つの時期の満ち満ちた務めの中でわたしたちを養い、聖徒たちが彼の神聖な命の中で成長し円熟して、彼の七倍の強化の中で勝利者となるようにします——ヘブル 8:1-2. 啓 2:7, 17. 3:20。

**III. バイタルグループのメンバーは、人をはぐくみ養うことによって牧養しなければなりません：**

- A. 人をはぐくむとは人を幸いにし、喜ばせ、心地よくすることです（マタイ 9:10. ルカ 7:34）。

人を養うとは、受肉、包括、強化の三つの時期の中で、満ち満ちた務めにおけるすべてを含むキリストをもって人を供給することです（マタイ 24:45-47）。

- B. 人をはぐくみ養うことは、復活の中の神聖で奥義的な命によるべきであって（人を引き寄せる要因である主の臨在を伴う）、旧創造の中の天然の命によるべきではありません——ヨハネ 5:19, 30. 6:57. ガラテヤ 2:20。

**IV. わたしたちは牧養する生活、すなわち愛の中でキリストを人に供給する生活をして、召会を建造する必要があります。このような生活は多くの実を結ぶ生活です——使徒20:20, 31. I コリント8:1. ヨハネ15:5:**

- A. 諸召会を顧み、聖徒たちを牧養することで必要とされるのは、命を供給することの親密な心遣いです——II コリント 7:2-3. ピレモン 7, 12 節:

1. 聖徒たちを牧養するとき、わたしたちは人を殺す可能性があります。この殺す原因、実を結ばない原因は、親密な心遣いに欠けることです——参照、II コリント 3:6:
  - a. 神の言葉の乳、すなわちキリストの命の供給は、キリストにある新しい信者たちを養うのに用いられるべきであって、彼らを「煮る」ためであってはなりません——出 23:19 後半。
  - b. わたしたちに働きを遂行する才能があっても、親密な心遣いに欠けるなら、わたしたちの働きは実を結びません。わたしたちの心は広くされて、信者たちの状態がどのようであっても、すべての信者を抱擁しなければなりません——II コリント 6:10-11。
2. わたしたちが実を結ぶことができるか、どれほどの実を結ぶかは、わたしたちに何ができるかにかかっているのではなく、わたしたちに親密な心遣いがあるかどうかにかかっています。
3. 供給する命は人を温める命です。命を聖徒たちに供給しようとするなら、彼らに対する真の心遣い、すなわち感情に富んだ、深い、親密な心遣いを持たなければなりません。
4. わたしたちが聖徒たちを牧養することは、養う母、また勧めをする父のようであればなりません——I テサロニケ 2:7-8, 11-12。

- B. わたしたちが何であっても何をすることも、愛は最も卓越した道であって、キリストのからだを建造します——II テモテ 1:7. I コリント 8:1. 12:31 後半:

1. しばらく集会に来ていない人は、召会が自分を罪定めしていると思っています。わたしたちは愛の心を持ち、行って、召会はだれも罪定めしない、むしろ、召会はしばらく集会に来ていないすべての人が戻って来るのを見ることを願っていると告げなければなりません:
  - a. 主のあわれみがなければ、わたしたちはしばらく集会に来ていない人と同じになるでしょう。ですから、わたしたちは彼らを愛さなければなりません。
  - b. すべては愛にかかっています。それは賢い王ソロモンが、「愛はすべての違犯を覆う」（箴 10:12 後半）と言ったようにです。
2. 召会は家、病院、学校ですから、わたしたちは主と一になって、愛の中で人を養育し、いやし、回復し、教えなければなりません:
  - a. わたしたちは弱い人の水準に下って行って、彼らを得ることができるようにならなければなりません——II コリント 11:28-29. I コリント 9:22. 参照、マタイ 12:20。
  - b. わたしたちは聖徒たちのために、自分が持っているもの、すなわち財物を費やし、わたしたちであるもの、すなわち自分の存在を費やさなければなりません——II コリント 12:15。
3. 愛はねたまず、いらだたず、人の悪を数えたてないで、すべてを覆い、すべてを耐え忍び、決して絶えることがなく、最も大いなるものです——I コリント 13:4-8, 13。